

「技能と技術」誌 表紙デザインへの取り組み

国立職業リハビリテーションセンター DTPデザイン科
大元 郁子



本校は、障害者1人ひとりの職業的自立のために、職業人として必要な知識・技能を身につけ、仕事を企画し遂行する能力を高めるための訓練を行っています。

DTPデザイン科は1年課程のデザイン系で、DTP（デスクトップパブリッシング）システムを活用したレイアウトデザインを中心とする商業印刷物のプレゼンテーション製作を中心に訓練を実施しています。

具体的には旅行パンフ、イベント用ポスター、ブックカバー等のデザインおよびプレゼンテーションの訓練です。訓練生相互でコンセプトとデザインのディスカッションを行いながら、さまざまな意見の中からデザインの表現力や技能を高めています。

今回「技能と技術」誌の表紙デザインを募集していることを知り、訓練生のデザイン製作の技能を確認する意味からもDTPの基礎を習得した5人が表紙デザインに取り組み、応募することとしました。

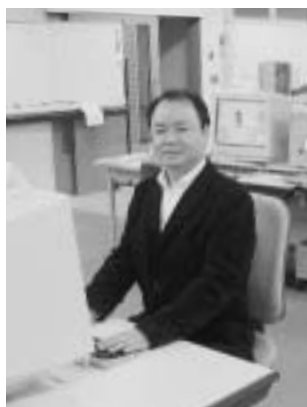
冊子の表紙デザイン製作に当たり、「技能と技術」誌はどんな本なのか、冊子の内容からどんなイメージを思い描くのか、「技能」または「技術」という言葉から連想するものは何か？からテーマを考え思い浮かべたイメージを数点ラフに描き、そして具体化するといった工程について指導しました。今までにないジャンルの本の表紙デザインということもあって、みんな苦勞していたようです。

受賞した本人は、この頃ちょうど訓練に対する過渡期だったようです。今回この賞をいただくことができたことは大変うれしかったようで、また自分なりに今までの訓練の復習ができたようです。指導する立場としては、今回の受賞を励みにさらに技術・感性を磨き就職に結びつけてほしいと考えています。

最後に、本誌表紙デザインの審査に当たられた諸先生方および関係者の方に感謝の意と御礼を申し上げます。

■最優秀賞受賞者

国立職業リハビリテーションセンター DTPデザイン科 小林 伸吾



自己紹介 障害者になって3年経過し、仕事も失い、肩書きもなくして、これからどうやって生計をたてていけばいいのかとても悩んでいる時に当センターと出会い、技能を身につけて社会復帰している方が大勢いることを聞き入学しました。実際に訓練校に入るととても緊張感があり、そして生き生きとした笑顔がとびかう人たちが溢れかえっていました。現在6ヵ月を過ぎ、DTPデザインの基礎がなかなか覚えられない自分に焦りと不安を抱えながらも、表紙デザインの課題に取り組みました。

作品コメント 今回の作品は「未来を育てる」というテーマを考えましたが、いざ作品に取りかかってはみたものの思うようにいかず、技能と技術の未来を表現する方法は何なのか、改めて「技能と技術」誌を手にとり一日中眺めてみました。そして「技能」「技術」を幾何学的模様イメージし、能力の可能性、発展、未知の力を自由な空間の中に表現し、光の位置と幾何学的模様のバランスで温かみを感じられる効果を出してみました。